

米子病院だより

はあとライン

平成29年10月

38号

発行：医療法人勤誠会 米子病院 編集：広報委員会 所在地：〒683-0015 鳥取県米子市日原319-1
TEL (0859) 26-1611 FAX (0859) 26-0801 E-mail: info@yonago-hospital.or.jp

第13回はあとまつり2017

5月27日（土）、当院の管理棟4階にて第13回はあとまつりを開催しました。

今年のスローガンは
～地域に咲かそうはあとの花～

午前のステージは、毎年恒例となったかいせい保育園園児さんらによる演技からスタート。総勢30名の園児さんらが2グループに分かれ、かわい踊りを披露していただきました♡

そして、今年は尚徳中学校吹奏楽部の皆さんが来場し迫力ある演奏をしていただきました。午後からは、恒例となった高木さんによる単独ミニラ

イブ、当院スタッフで結成されたバンド「日原軽音クラブ」によるライブやYMC A米子医療福祉専門学校の学生さん達による「ゲーム&体操」。そして、最後は米子病院のドクターで結成された「ドクターズ」が踊りや劇「水戸黄門」を披露しました。

その他会場では、作品展示・販売、フリーマーケット、屋台、そして学生さん達による健康チェック、ハンドマッサージ、体験コーナー等を設置し、たくさんの方が来場し楽しんでおられました☆☆

また今年のマスコット「くらすけくん」も大人気で、あっちこちで握手を求められ来場者の皆さんを和ませていました。

尚、当日の売り上げは鳥取県中部地震の義援金として被災地に寄付させていただきました。ご来場・ご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。
本当にありがとうございました。



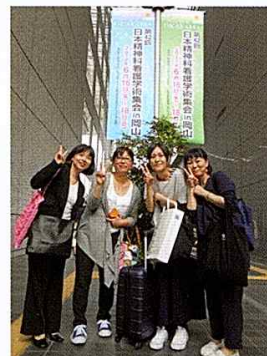
第42回日本精神科看護学術集会に参加して

平成29年6月16日（金）～18日（日）の3日間、岡山県岡山市で第42回日本精神科看護学術集会が開催され、当院から5名の看護師が参加し、2グループに分かれて発表してきました。

【題名】 「BPSDのある認知症患者に役割を取り入れたかかわり、患者が好む雑巾縫いを通して見出した1事例」

【発表者】 看護部 安田 麻美、廣田 美代子、田子 由美子

私たちは標記をテーマに発表を行ってきました。会場から多くの質問を受け、興味を持っていただけたことがうれしく思いました。認知症に関する発表も多く、今後病棟でも活用できれば良いなど思いました。今回の学びを、これからの看護に生かしていきたいと思えます。



【題名】 「摂食・嚥下障害について」

【発表者】 看護部 遠藤 智子、佐伯 絢子

私たちは摂食・嚥下障害のカテゴリーで発表してきました。私たちが行ったことが患者さんの意思表示につながり、身体的不調を起こすことなく、今現在も継続出来ていることはとてもうれしく、やりがいがありました。学術集会の中に病棟でも活かせる発表が多くあり、日々の業務の中で、きちんと患者さんに質の高い看護を実践できるよう行動していきたいと思えます。



認知矯正療法NEAR（ニア）について

臨床心理士 小林 安起

買い物の際に何をかうのか覚えている、沢山の品物の中から目的の食材を見つける、料理の工程を理解しその順番通りに料理を作る。私たちが普段行っている何気ない行動をみても、意外と様々な能力を緻密に組み合わせて行っていることが分かります。

これらの、考え行動するために必要な基礎的な能力のことを「認知機能」といいます。記憶力、注意力、問題解決力などとよばれる能力を総称したものです。これらの能力が障害されると自立した生活が非常に困難になることが知られています。そして精神疾患の発症に伴い、多くの方に何等かの認知機能障害が存在することも知られています。

現在の精神科リハビリテーションの中では、このような理由から認知機能にターゲットを絞った治療が行われることがスタンダードとなりつつあります。当院においても「認知矯正療法NEAR（ニア）」という治療を取り入れ、行っています。多くの実践により、認知機能の改善に一定の効果があることが認められています。リハビリと聞くと辛いイメージがあるかもしれませんが、NEARの場合パソコンのゲームを用い、楽しくかつご本人の意欲を大切にしながら認知機能の改善を目指すことが一番の特色です。

参加には一定の条件がありますので、ご興味のある方は主治医の先生にご相談下さい。



（認知矯正療法NEARについて院内研修会を行う小林臨床心理士）

○ 職場紹介 ～ 地域医療福祉連携室 ～ ○

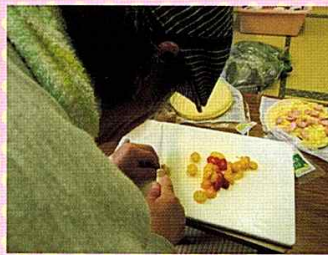
当院の地域医療福祉連携室は、今年の6月に医療福祉相談室から名称を改め、精神保健福祉士に看護師が加わり新体制となりました。

連携室では、患者さん・ご家族への個別支援をはじめとし、病院内と院外のつなぎ役・調整役として、また、人権擁護や社会復帰を推進するための役割も担っており、さまざまな場面で活動しています。入院や受診の相談、長期入院の問題に対する地域移行支援・地域定着支援、退院後の生活調整などをそれぞれ関係機関と連携しながら課題解決のために日々奮闘しています。私たちに必要とされる調整力・連携力・協働力を活かし、患者さん一人一人に合った支援を提供していきたいと思っておりますのでこれからもよろしくお願いします！！

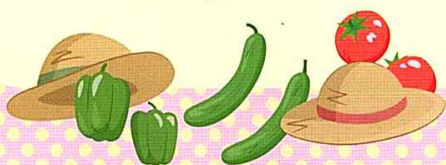


農芸

新年度になり、新メンバーも変わりました。4月に夏野菜を植え、梅雨の時期は草取りをメンバーと一緒に行いました。すぐ、生えるので大変でした。夏になり、4月に植えた夏野菜もすくすく育ち、8月に無事収穫を迎えることができました。収穫した野菜を使い、メンバーと一緒にイタリアンランチ（夏野菜ピザ・パスタ）、夏野菜カレーを作りました。自分たちが丹精込めて育てた野菜とあって、皆さん、“美味しい”と笑顔がこぼれていました。



収穫した野菜を気持ちを込めて調理するメンバーさんたち



愛情のこもった料理が完成。盛り付けも上手にできました！





市民レガッタ参加報告



さる7月9日、湊山公園にある錦海ポート場で第49回米子市民レガッタが開催され、昨年に引き続き、当院から3チーム16人が参加しました。

昨年は初参加だったこともあり目立った成績は残せませんでしたが、今年は決勝レース進出を目標に毎週1回のペースで仕事終わりに湊山公園に集まり、練習を重ねてきました。当日はあいにくの嵐となり、傘が全く役に立たないほどの雨と強風に見舞われ、水上のレースは中止。屋内でのトレーニングマシンを漕いでのタイムレースに変更です。ひとりが1分ちょっと漕ぎ、次の人に交代して4人漕ぎきればゴール！会場は選手と応援する人であふれ熱気ムンムンです。当院の「日原オールスターズ」が見事準優勝、「日原バラレディース」が特別賞に輝きました。来年もがんばります！



日原オールスターズ



日原レガッタクラブ



日原バラレディース



全員で記念撮影

米子病院で働く仲間

クローズアップ Vol.3

今回は、当院の台所を取り仕切る日清医療食品(株)の栄養士さんに直撃インタビューを行いました。

Q 1) 勤務体制を教えてください。

総勢17名のスタッフが勤務しています。朝5時から夜19時30分まで、交代でローテーションを組んで働いています。

Q 2) 米子病院の印象は？

親切なスタッフが多く、普段からよく声をかけて下さいます。米子病院の忘年会にも呼んでいただいて交流が持てて本当に良かったです。

Q 3) 仕事上で心がけていることはありますか？

衛生面、食べやすさ、食感、彩りなどに気を配り、できるだけ季節の食材を取り入れ、患者さんのニーズに合わせ、日々試行錯誤しながら調理しています。

Q 4) 米子病院で働いてうれしかった事がありますか？

やっぱり、「美味しかった」という意見を聞くとうれしいです。それと、普段から自分

たちの意見を取り入れて下さるので、仕事がしやすく助かってます。

Q 5) 難しい調理とかありますか？

特にはないです。ただ現在、フレンチシェフが専属で勤務しているので洋食系の料理は助かってます。今後は、もっと手を掛け工夫を凝らした洋食料理を提供していきたいと思えます。

Q 6) 最後に一言？

これからも感謝と謙虚な気持ちを忘れず、安心・安全な食事の提供ができるようスタッフ一同、努めていきたいと思えます。

毎日美味しい料理を作っていただけ感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。これからもどうかよろしくお願致します(^O^)



編集後記

今年の夏は本当に暑い日が続きました。皆様いかがお過ごしでしょうか？夏の疲れは季節の御飯とたっぷりの睡眠で早めに解消しましょう。寒くなる時期なので、体調管理にはお気を付け下さい。
(K・K)

※プライバシー保護の観点から、一部画像の加工を行っております。

FAX またはメール等でご意見ご感想をお寄せ下さい。

FAX (0859) 26-0801 E-mail : info@yonago-hospital.or.jp